

# 銀の皿

「燃え尽き症候群」



27～28歳くらいの時だったと思います。8年ほど続けた教会青年部のリーダーを次の人代わりました。お祈りしている時イメージが与えられ、それは壺から流れている油が自分ではなく、ある青年に流れているというでした。その映像が与えられた時、私はその働きを退く決断をしました。しかしその後、私は燃え尽き状態になり、教会の奉仕に力が入らなくなってしまいました。教会に行くことは必要最小限にして、神様が喜ばないことを陰でいっぱいしました。この時から献身して神学校に行くまでの3年間、その期間は私にとってのトンネル時代です。神様の御心から精一杯逃げていました。本当に祈った事なので正直に書きますが、積もり積もった罪悪感から「神様、私の命をこの世から取り去って下さい」とお祈りしたことがあります。

しかしこの3年間を今、振り返る時に、とても大切な時間だったと言えます。私がこの期間に学んだことは神の憐れみの深さでした。自暴自棄と罪悪感と無気力で、ほとんどお祈り出来る状態ではありませんでした。うなだれて何も言えず、ただ赦しを乞う時、イエス様は「お前を赦す」と語り掛け、その血潮で罪を洗い流して下さいました。何か技術を身に着けるとか、精神的にタフになるとかではなくてただ、赦されていることを繰り返して学んでいきました。

信仰生活で挫折する大きな原因は御言葉と私生活のギャップにあるように思います。聖書は愛を語るのに他人の中にも自分の中にも愛を感じない。福音の拡大を願っても、一向に日本のクリスチヤンは1%を超える気配が無い。争いが絶えない世界、出口の見えない現状等。しかしこの朝、私達が学んだことは、キリストにある苦しみは信仰と共に神様から与えられた賜物であるという事です。神様は私達をいじめぬくためにそうしているのではなく、次の大きな喜びに導くためにそのようにされるのです。私達と主の一番の喜びとは魂が収穫されることです。そのために神様は丁寧に私達を導いてくださっています。あのトンネル時代の中で得た神の恵みは私の信仰生活の根幹を支えています。私達の賛美、奉仕、そして伝道の根底にあるものは主の赦しです。どのような中でも主に在って喜び歌いましょう。

いつも主にあって喜びなさい。もう一度言います。喜びなさい。

ピリピ 4:4

